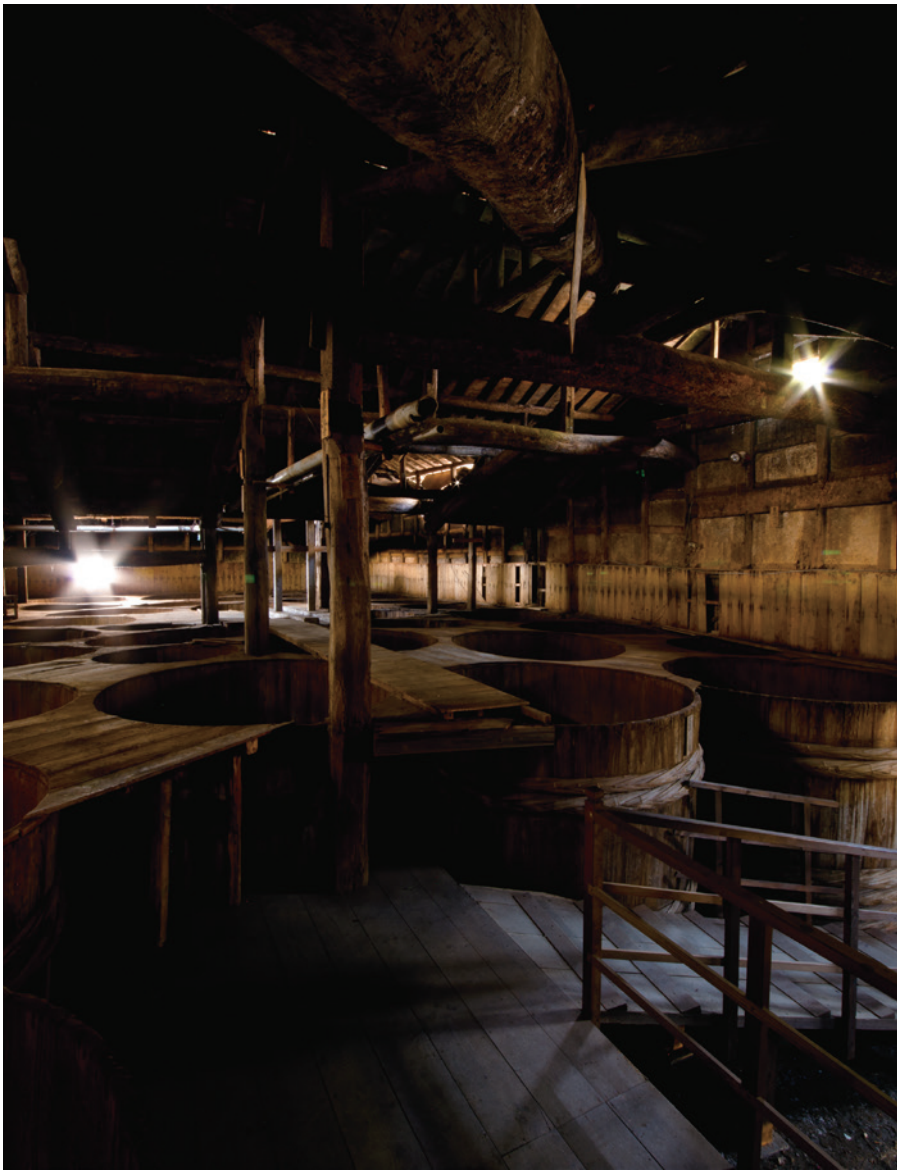


龍野アートプロジェクト 2013

刻の記憶、

Arts and Memories

龍野アートプロジェクト 2013

刻の記憶、

Arts and Memories

代表挨拶

2011年より、文化庁のご支援をいただき、「龍野アートプロジェクト 刻の記憶 Arts and Memories」が、この地、龍野で開催されることとなりました。
龍野は古くより「播磨の小京都」と称され、有識者の間では、その存在価値が高く評価されて参りましたが、私を含め、この地で生まれ育ったものには、子どもの時からあるごくごくありふれた風景といった感覚が強く、それでいて戻ってくるとなぜかホッとする空気感を持った城下町でした。
そんな龍野の良さが、訪れる多くの方々にとっても、懐かしく思える時代に、日本の故郷(ふるさと)の原風景として、後世に残し、共有していくことが、この地に生まれ育ったものの務めではないかと思うようになりました。
なにぶん、龍野は観光地化されていない良さが残る反面、いろいろご不便をおかけするところもあり、そんな環境の中で、龍野の良さを最大限、満喫していただこうと、「龍野アートプロジェクト」を始動いたしました。
今年度の開催は、11月15日－24日の9日間ではありますが、現代美術の素晴らしさと伝統的な建築物の魅力が相乗効果として発揮される独特の空間を創出し、芸術とまちの魅力を国内外に発信していこうと考えています。
幸い、2011年、2012年開催時には、多くの方々からお褒めの言葉をいただき、感謝いたしております。
今年度も今まで以上に素晴らしい「龍野アートプロジェクト」が開催できますよう心を込めて頑張りますので、何卒ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

龍野アートプロジェクト
代表　浅井 良昭

龍野アートプロジェクトとは

城下町龍野には、江戸時代からの地場産業の拠点である醤油蔵や町民が「石門心学」を広めるための校舎「思誠舎」、さらに童謡「赤とんぼ」の作詞者三木露風の生家など多くの文化財があります。これらを保存するだけではなく、その魅力を活用、発信することによって、地域の活性化を図り、多くの人々を集客する場を創設していくことを目的として、2011年より、本プロジェクトを開始しました。

今年度の展示について

3年目となる本年は、これまでの招待作家に加えて新たにさわひらき、松井智惠、ミロスワフ・バウカを迎え、城下町一円を会場に「城下町美術館」を展開してゆきます。また今年度はたつの市出身の若手作曲家 薮田翔一を迎え、芸術ジャンルを横断した現代音楽と現代美術の響演を行います。こうして、すぐれた芸術を国内外に発信し、地域に残る文化財を活用し、また地元市民とのコミュニケーションを積極的にはかることによって、より多くの人々の集う町となることを目指します。

開催概要

2013年11月15日(金)－24日(日) ※18(月)休館
会場：ヒガシマル醤油元本社工場［国登録有形文化財］／龍野城／聚遠亭／他

招待作家：さわひらき／松井智惠／ミロスワフ・バウカ／松谷武判／山口敏郎／今村遼佑／尹熙倉／東影智裕／小谷真輔
参加作家：桐月沙樹／西村知子／角田広輔／佐藤文香／芝田知佳／ル・アーブル/ルーアン高等美術デザイン学校
［卒業生：井上いくみ／犬丸暁／ジェレミー・アンドレ／オフェリ・マック
在学生：マーク=アントワーヌ・ガルニエ／ボニー・ポット］
特別参加作家(音源出品)：薮田翔一

芸術監督：加須屋明子(京都市立芸術大学准教授)
コーディネイト：井上美佳(ガレリア アーツ&ティー代表)
建築アドバイザー：岸野裕児(岸野建築設計工房)

主催：龍野アートプロジェクト
後援：たつの市／姫新線利用促進・活性化同盟会／朝日新聞社／神戸新聞社／産経新聞社／毎日新聞姫路支局／読売新聞姫路支局／共同通信社／NHK神戸放送局／サンテレビジョン／ラジオ関西／アンスティチュ・フランセ関西
助成：公益財団法人神戸文化支援基金／公益財団法人朝日新聞文化財団／ポーランド広報文化センター／アダム・ミツキェヴィチ・インスティテュート
協力：ヒガシマル醤油株式会社／兵庫県立龍野北高等学校／兵庫県立龍野高等学校／ル・アーブル/ルーアン高等美術デザイン学校／たつの市音楽協会／クリエイティブハウスおくむら／有限会社スガハラテント／MATSUO MEGUMI+VOICE GALLERY pfs/w／MEM／オオタファインアーツ／Antenna Media／合名会社　柳生印刷所

ポーランド広報文化センター INSTYTUT POLSKI TOKIO
Adam Mickiewicz Institute CULTURE.PL

龍野アートプロジェクトの開催経緯を教えてください。

龍野城の城跡に歴史文化資料館があって、学芸員さんを中心に、地域の歴史的な文化の保存と活用が盛んに行われているんです。揖保川沿いにあるギャラリーカフェ、ガレリア アーツ&ティー(アートプロジェクト事務局でもある)では、99年の営業開始以後、美術展やコンサート等、多岐に渡る企画が催されてきました。オーナーは若い頃、ニューヨークのSOHOを訪れ、倉庫がギャラリーとして活用されている姿に感動し、いつか龍野でも同じようなことができないかと、夢を温めていたそうです。そして、本プロジェクトの実行委員長と副委員長はかねてより、NPO法人龍野町家再生活用プロジェクトにおいて、龍野の町並みの保存と活用に携わってこられました。こうした動きが下地となり、2011年より、龍野アートプロジェクトが始動することになりました。

加須屋さんご自身も龍野出身ということですが、
故郷で芸術監督を務めることへの想いはありますか。

私は龍野城跡に近い霞城町に生まれ、18年間を過ごしました。大学で美学を学んだあと、美術館の学芸員として18年間勤務し、現在は芸術大学で教鞭を執っています。そうしたタイミングで龍野アートプロジェクト始動にあたり、お声かけいただけて、古い町並みを生かす試みに携われることは大きな喜びです。

今回、初めて龍野を訪れる人も居るかと思います、
町の歴史や魅力を教えてください。

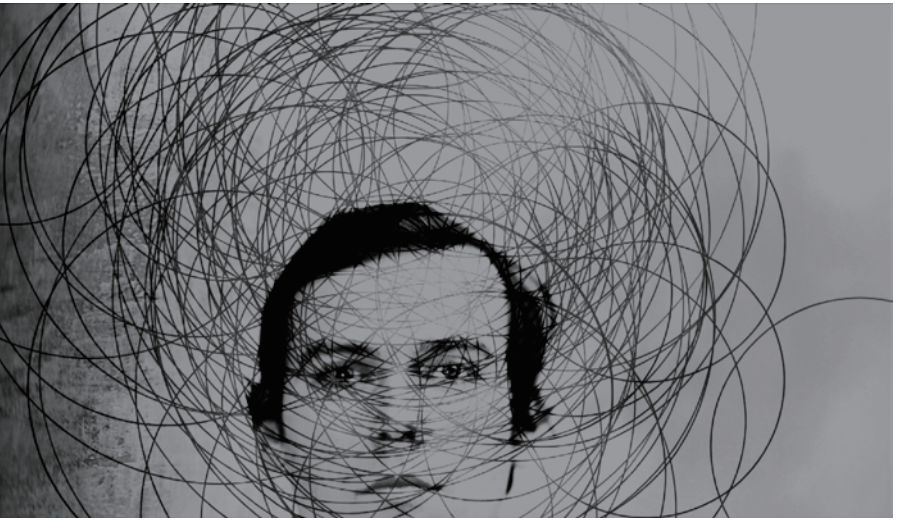
龍野は古い城下町として栄えてきました。05年に、近隣の地域(新宮・御津・揖保川)と合併してたつの市となり、新たな展開を見せつつあるように感じます。また、三木露風や三木清など文学者や哲学者を育んだ、歴史と文化の町でもあります。私は、昔ながらの風情の残る白壁の通りや、紅葉谷や鶏籠山、聚遠亭などの山林が大好きで、今もよく散歩しています。四季折々の風景が楽しめること、長く町並みが変わらないことが魅力ですね。龍野アートプロジェクトの会場である、ヒガシマル醤油元本社工場一帯は、100年以上の歴史を誇り、今年、国登録有形文化財となりました。また、重要文化財に指定された堀家住宅は川向こうにある立派なお屋敷です。歴史、自然、建築と様々な角度から楽しめるこうした町の魅力を、現代美術によって一層高め、新たな側面を互いに発見できることを願っています。

最後に、今年の見所を教えてください。

3年目を迎える今年は、これまでの集大成として、過去2年間の作家に新規参加を含め、総計20名という規模で、現代音楽も取り入れながらの開催となります。「刻の記憶 Arts and Memories」というテーマにふさわしい作家たちを選定し、これまでの総まとめであると同時に、今後の方向性も示せるようにと、過去から現在、そして未来へと継続していくことを視野に入れながら企画しました。龍野から世界へとつなげてゆけるようにと願っています。

加須屋明子
(龍野アートプロジェクト芸術監督/京都市立芸術大学准教授)

聞き手 | 南部沙智子(Antenna Media)



上:《Silts》 映像 14'50"
Courtesy of the artist and Ota Fine Arts, Tokyo
下:《Lineament》 映像 18'47"
Commissioned by Shiseido, Courtesy of the artist and Ota Fine Arts, Tokyo

さわひらき

SAWA Hiraki

嘘なのか本当なのかよくわからない曖昧な領域を制作の過程でもいつも意識していますし、自分の主張のようなものもはっきり出していません。作品を通して「これを理解して！」っていう表現をするよりは、作品を観た人がそれぞれの想像の中でその曖昧領域を共有して楽しめることのほうが、僕には大切に思えます。 『ART iT』第18号 2008年1月 より

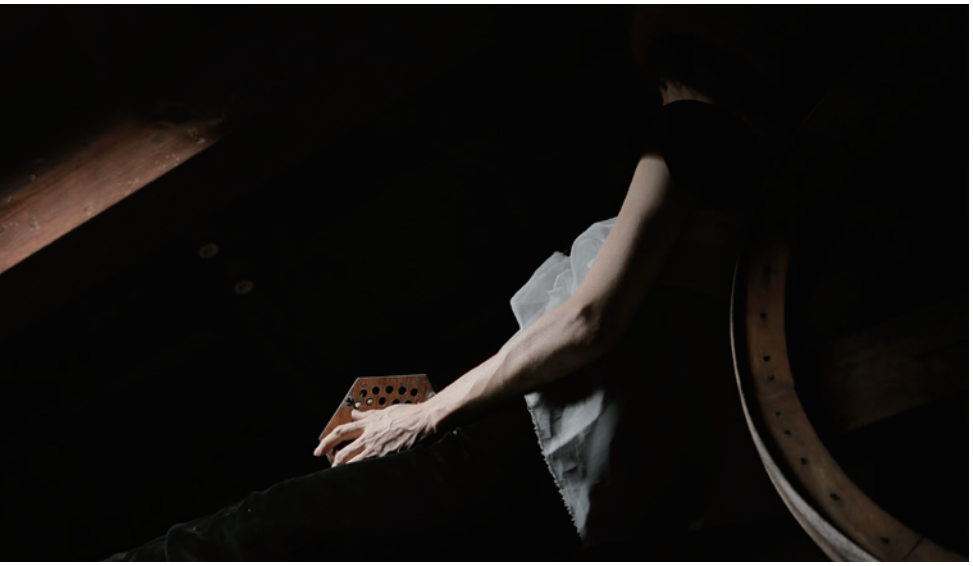
1977 石川県生まれ
2000 イースト・ロンドン大学卒業
2003 ロンドン大学スレード校美術学部修了
ロンドン（イギリス）在住

主な個展 *Selected Solo Shows*

2003 「さわひらき」オオタファインアーツ（東京）
,03, 05, 09, 12
2004 「Going Places Sitting Down」
ヘイワード・ギャラリー（ロンドン、イギリス）
2005 「クリテリオム63 さわひらき」
水戸芸術館現代美術ギャラリー（水戸、茨城）
「さわひらき」
ハーシュホーン彫刻の庭
（ワシントン、アメリカ）
2006 「さわひらき展」広島市現代美術館
2007 「さわひらき展」
フリスト視覚美術センター
（ナッシュビル、アメリカ）
2012 「さわひらき展 Whirl」
神奈川県民ホール（横浜、神奈川）
「Lineament」
資生堂ギャラリー（東京）

主なグループ展／スクリーニング
Selected Group Shows / Screenings

2003 「リヨン・ビエンナーレ」
リヨン現代美術館（フランス）
2004 「21世紀の出会い — 共鳴、ここ・から」
金沢21世紀美術館（金沢、石川）
「エピソード — 第2回アジア・アート・ナウ展」
清州アートセンターギャラリー（韓国）
「Have We Met? 見知らぬ君へ」
国際交流基金フォーラム（東京）
2005 「Thoughts of a fish in the deep sea:
ヴァレンシア・ビエンナーレ」
Convent of the Carmen
（ヴァレンシア、スペイン）
「横浜トリエンナーレ2005アートサーカス
［日常からの跳躍］」（横浜、神奈川）
2006 「カオスモス'05 — 辿りつけない光景」
佐倉市立美術館（千葉）
「愉しき家」愛知県美術館
「二重のリアリティ 第4回国際メディアアート
ビエンナーレ」ソウルメディアシティ（韓国）
2007 「Thermocline of Art: New Asian Waves」
ZKM（カールスルーエ、ドイツ）
「アルス・エレクトロニカ2007:
Goodbye Privacy」（リンツ、オーストリア）
「美しい新世界：日本の現代文化」
Long March Project／B.T.A.P／
Inter Arts Center／
中央美術アカデミー（北京、中国）／
広州美術アカデミー（中国）
「12th Biennale de l' Image en Mouvement」
Centre pour l' Image Contemporaine
（ジュネーブ、スイス）
「Have You Eaten Yet ? − 2007
アジア美術ビエンナーレ」台湾国立美術館
2008 「アーティスト・ファイル 2008
— 現代の作家たち」
国立新美術館（東京）
「ネオテニー・ジャパン — 高橋コレクション
日本新世代のトップ・アーティストたち」
鹿児島県霧島アートの森／
札幌芸術の森美術館（北海道）／
上野の森美術館（東京）／
新潟県立近代美術館／
秋田県立近代美術館／
米子市美術館（鳥取）／
愛媛県美術館
「タイムスケープ もうひとつの時間」
愛知県美術館
「釜山ビエンナーレ」
釜山近代美術館ほか（韓国）
「Drawing in the Clouds: アジア現代美術」
フィンランド現代美術館KIASMA
（ヘルシンキ、フィンランド）
「第13回アジア・アート・ビエンナーレ」
（ダッカ、バングラデシュ）
2009 「Big in Japan: 日本現代美術」
ヴィルノ現代美術センター（リトアニア）
「Voyage—Paris」パリ日本文化会館（フランス）
「第6回アジア太平洋現代美術トリエンナーレ」
クイーンズランド・アート・ギャラリー
（ブリスベン、オーストラリア）
「日本の新進作家展「出発」」
東京都写真美術館
2010 「リフレクション/
映像が見せる"もうひとつの世界"」
水戸芸術館現代美術ギャラリー（水戸、茨城）
「シドニー・ビエンナーレ」（オーストラリア）
「山荘美学 日高理恵子とさわひらき」
アサヒビール大山崎山荘美術館（京都）
2011 「BYE BYE KITTY!!!」
ジャパン・ソサエティ（ニューヨーク、アメリカ）
2013 「夢か、現か、幻か」国立国際美術館（大阪）



《ハイジ 53 “echo”》 ビデオインスタレーション　2013

松井 智惠

MATSUI Chie

龍野の旧市街地にいると、小鳥の声が聞こえた。

山を背に、川が流れている。かつて多くの人々が働き、ざわめきがあった。なぜだろう、眼にみえるものから、音が響いてくる。音が空間をつくり、すとんと「記憶」が落ちる。私は龍野の倉庫の中に佇んで、物語を紡ぐことにした。美しい言葉よりも、罵声を覚えてしまう性。多くの喜劇と悲劇が繰り返される人の生。小鳥よ、記憶を反射させ、こだまを蒼い空へと運んでくれるように。

1960　大阪府生まれ
1984　京都市立芸術大学大学院美術研究科修了
大阪市在住

主な個展　*Selected Solo Shows*

2010 「ハイジ50 “On The Day”」信濃橋画廊（大阪）
2011 「ハイジ51 “On The Day”」MEM（東京）
2012 「ハイジ52 “flower”, “B / W” 現代美術と批評のスクール」
MATSUO MEGUMI+VOICE GALLERY pfs/w（京都）
2013 「キッズ・ミート・アート」プレ企画　松井智惠展「ハイジ53」應典院（大阪）
「ロードショー」VOID+（東京）

主なグループ展　*Selected Group Shows*

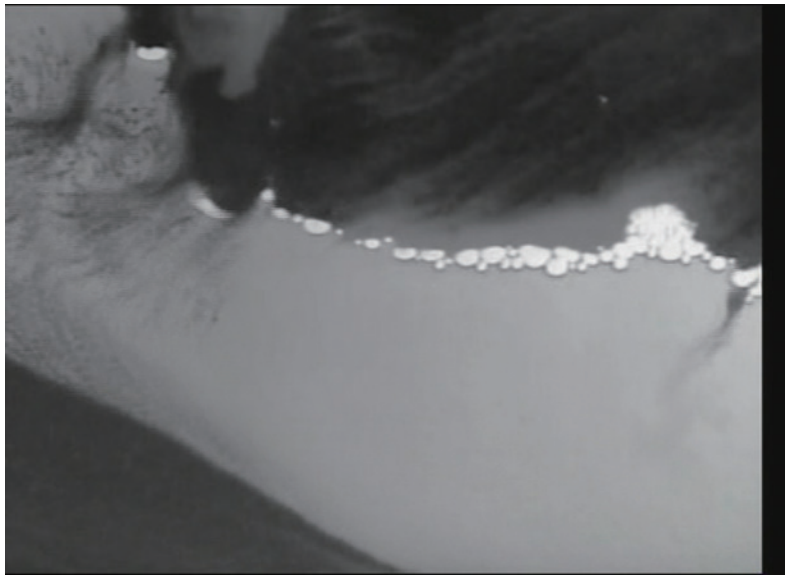
1989 「近作展7　今村源、松井智惠」国立国際美術館（大阪）
1990 「第44回ヴェネチアビエンナーレ　アペルト90」（ヴェネチア、イタリア）
1991 「ザ・サイレント・パッション：日本の女性アーティストたち」栃木県立美術館
1995 「Art In Japan Today：日本の現代美術 1985－1995／開館記念展」東京都現代美術館
1997 「projects 57, bul lee・chie matsui」ニューヨーク近代美術館（アメリカ）
2002 「いま、話そう。日韓現代美術展」国立現代美術館（ソウル、韓国）／国立国際美術館（大阪）
「未来予想図：私の人生☆劇場／開館記念展」兵庫県立美術館
2005 「横浜トリエンナーレ2005　アートサーカス［日常からの跳躍］」（神奈川）
2008 「ゆっくり生きる。What Is the Real Nature of Being ?」芦屋市立美術博物館（兵庫）
2011 「新incubation 3「On a Knife Edge — 二つの向こう岸」」京都芸術センター
「画像進化論」栃木県立美術館
2013 「新収蔵品紹介1　信濃橋コレクション」兵庫県立美術館（兵庫）

受賞　*Award*

1995 咲くやこの花賞（大阪市）

パブリックコレクション　*Public Collections*

国立国際美術館/栃木県立美術館/東京都現代美術館/高知県立美術館/高松市美術館/横浜美術館



上：《The Fall》 映像 5’08” (loop) 2001
courtesy of artist and Galerie Nordenhake, Berlin

下：《Otw.》 映像 7’16” (loop) 2012
courtesy of artist

© Studio MB

ミロスワフ・バウカ

Mirosław BAŁKA

私の作品は常に物事の境界にあります。私が表現しようとしている政治的、宗教的な状況は見せかけの背後に隠されており、注意深く観察すれば、そこに信念や真実の痕跡が見つかるかも知れません。

クレール・フラネリー『ミロスワフ・バウカ：りんごの木』
MIRAJ第一巻第一号2012年1月23日より

1958 ワルシャワ（ポーランド）生まれ
1985 ワルシャワ美術アカデミー卒
1986–1989
マレック・キィエフスキ、ミロスワフ・フィロニクと共に
「Consciousness Neue Bieriemiennost」で活動
現在 ワルシャワ美術アカデミー教授
オトヴォツク、ワルシャワ（ポーランド）在住

主な個展 *Selected Solo Shows*

2000 「近作展24 ミロスワフ・バウカ〈食間に〉」国立国際美術館（大阪）
2006 「迫る光」K21（デュッセルドルフ、ドイツ）
2008 「今」WROアートセンター（ヴロツワフ、ポーランド）
2009 「How It Is」テート・モダン（ロンドン、イギリス）
2011 「フラグメント」現代美術センター（ワルシャワ、ポーランド）／ベルリン芸術アカデミー（ドイツ）
2013 「物事の秩序」グラッドストーン・ギャラリー（ニューヨーク、アメリカ）

主なグループ展 *Selected Group Shows*

1990 「アペルト 第44回ヴェネチア・ビエンナーレ」（イタリア）
1992 「ドクメンタIX」（カッセル、ドイツ）
1995 「Rites of Passage」テート・ギャラリー（ロンドン、イギリス）
「水の波紋」ワタリウム美術館（東京）
1998 「第24回サンパウロ・ビエンナーレ」（ブラジル）
「芸術と環境 ― エコロジーの視点から」国立国際美術館（大阪）
2005 「芸術の経験 第51回ヴェネチア・ビエンナーレ」（イタリア）
「転換期の作法 ― ポーランド、チェコ、スロヴァキア、ハンガリーの現代美術」国立国際美術館（大阪）／広島市現代美術館／東京都現代美術館
2006 「第15回シドニー・ビエンナーレ」（オーストラリア）
2008 「液晶絵画 Still/Motion」三重県立美術館／国立国際美術館（大阪）／東京都写真美術館
2011 「オスタルジア」ニューヨーク新美術館（アメリカ）
2013 「第55回ヴェネチア・ビエンナーレ」（イタリア）

主なパブリック・コレクション *Public Collections*

ハーシュホーン美術館（ワシントン、アメリカ）／モデルナ・ガレリア（リュブリアナ）／ロサンゼルス現代美術館（アメリカ）／セラルヴェス現代美術館（ポルト、ポルトガル）／ウッチ国立美術館（ポーランド）／サンフランシスコ近代美術館（アメリカ）／テート・モダン（ロンドン、イギリス）／シカゴ美術館（アメリカ）／イスラエル美術館（エルサレム）／国立国際美術館（大阪）／ファン・アベ美術館（アイントホーフェン、オランダ）／ワルシャワ現代美術センター（ポーランド）

《作品-K-61》
水性、油性絵の具、合板　183.5×183.5 cm　1961

松谷 武判

MATSUTANI Takesada

世界中、無数の情報が飛び交っている。それは必要性があっての事で、反対はしない。しかし人間の存在は、情報の様に飛び交うものではない。人間それぞれの個性、生活している場所、人の行為の大小如何にかかわらず、真の個と個の触れ合う場、そうした場を大切にしたい。

1937　大阪府生まれ
1954　大阪市立工芸高校日本画科入学、
　　2年後病気のため中退
1952　兵庫県西宮市に転居
1960　具体美術展に初出品
1963　具体美術協会会員に推挙される
1966「フランス政府留学生選抜
　　第1回毎日美術コンクール」で
　　グランプリを受賞し渡仏
1967　S・W・ヘイターの版画工房
　　アトリエ17に入門、69・70年助手を務める
1970　モンパルナスに
　　シルクスクリーン版画工房設立
パリ（フランス）在住

主な個展　*Selected Solo Shows*

1983「今日の作家シリーズ　松谷武判／
　　1981–1983年間の仕事」
　　大阪府立現代美術センター（大阪）
1993「松谷武判展'60年代から今日まで」
　　西宮市大谷記念美術館（兵庫）
1998「松谷武判　行為　時間　空間」
　　ダナエセンター（フランス）
1999「松谷武判の版画　絵画」
　　芦屋市立美術博物館（兵庫）
2000「波動 — 松谷武判展」
　　西宮市大谷記念美術館（兵庫）
2002「松谷武判展」
　　ケアンズ州立美術館（ケアンズ、オーストラリア）
2007「松谷武判　回顧展」
　　アンドレ・マルロ文化センター
　　（アジャン、フランス）
2010「松谷武判展 — 流動 —」
　　神奈川県立近代美術館（神奈川）

主なグループ展　*Selected Group Shows*

1957「西宮市展日本画部」安井小学校
　　（西宮、兵庫）《岩肌》出品　初入選
1958「第5回新美術協会展」
　　大阪市立美術館（大阪）
　　《斜陽》出品　新人賞
1960「第9回具体美術展」
　　大阪高島屋（大阪）初出品、
　　以後1972年の具体美術協会解散まで
　　全展に出品
1966「現代美術の動向」
　　京都国立近代美術館（京都）,69
1968「第1回パリ国際版画ビエンナーレ展」
　　パリ市立近代美術館（フランス）
1979「吉原治良と具体のその後」
　　兵庫県立近代美術館（兵庫）
1985「絵画と行為　グループ具体展」
　　スペイン現代美術館（スペイン）／
　　ユーゴスラビア国立現代美術館
1990「前衛の日本 — 1950年代の具体展」
　　ローマ国立近代美術館（イタリア）
1991「絵画の冒険者たち「具体」展」
　　福岡市美術館（福岡）
1997「重力　戦後美術の座標軸」
　　国立国際美術館（大阪）
2000「日本の美術、世界の美術
　　—この50年の歩み」
　　東京都現代美術館（東京）
2004「ガレリア5周年記念　松谷武判／
　　ケイト・バン・ホウテン二人展」
　　ガレリア アーツ＆ティー（たつの市、兵庫）
2007「国立国際美術館開館30周年記念展
　　30年分のコレクション」
　　国立国際美術館（大阪）
2009「画家たちとパリ　パリを拠点に」
　　西宮市大谷記念美術館（兵庫）
2012「国立新美術館開館5周年「具体」
　　—ニッポンの前衛 18年の軌跡」
　　国立新美術館（東京）
　　「龍野アートプロジェクト2012　刻の記憶
　　Arts and Memories」（招待出品）
　　（たつの市、兵庫）
2013「具体：素晴らしい遊び場所」
　　グッゲンハイム美術館
　　（ニューヨーク、アメリカ）
　　「菅井汲／松谷武判　版画展」
　　芦屋市立美術博物館（兵庫）

主な受賞　*Awards*

1966「フランス政府留学生選抜第1回毎日美術コンクール展」京都市美術館（京都）グランプリ受賞／1969「第1回国際絵画フェスティバル」カーニュ・シュル・メール（フランス）プリ・ナショナル賞／「第53回カナダ絵画、版画協会展」トロント・ドミニオン・センター・オブザベーション・ギャラリー（カナダ）国際ニッケル賞／「第7回オーストリア国際版画展」ヨーロッパハウス（ウィーン、オーストリア）第3等賞／1972「第3回リエカ国際オリジナル・ドローイング展」リエカ近代美術館（旧ユーゴスラビア、現クロアチア）買上賞／1974「第4回イギリス国際版画ビエンナーレ展」ブラッドフォード市立カートライト・ホール美術館（イギリス）スコットランド美術会賞／「第5回クラクフ国際版画ビエンナーレ展」（ポーランド）買上賞／1976「第5回イギリス国際版画ビエンナーレ展」ブラッドフォード市立カートライト・ホール美術館（イギリス）第2等賞／1980「第7回リエカ国際オリジナル・ドローイング展」リエカ近代美術館（旧ユーゴスラビア、現クロアチア）国際審査員賞／1983「第1回アントワープ国際版画展」（ベルギー）大賞／1990「第1回大阪絵画トリエンナーレ展」マイドームおおさか（大阪）3等賞／2002 西宮市民文化賞／2011 井植文化賞

山口 敏郎

YAMAGUCHI Toshiro

今回の仕込み蔵での「発酵≒発光」でもエネルギーが主題である。まず醤油蔵で煮られて柔らかくなった大豆、煎られた麦・米が仕込み蔵へと移される。ここでそれらがたんぱく質から醤油の旨味として必要なアミノ酸に変わるために大切な「発酵」という秘儀を受ける。ここでは無垢な女体（たんぱく質）が麹菌により受精、受胎して子（アミノ酸）を生み出す際に、内部より発生する柔らかい母性的エネルギーが「発光」の形で表象される。その受精としての「発酵」に必要な麹菌を作るための「塩」（白い華≒波の花）は二次的だが重要な役割をする。

《龍の船》
樹脂粘土、針金、顔料　サイズ可変　2012

1956　岡山県生まれ
1978　武蔵野美術大学卒業
1982　マドリードに移住
2006　ESPACIO TAO（マドリード／岡山）
　　を立ち上げ、日本とスペインの
　　文化交流の場とする。
マドリード（スペイン）在住

主なグループ展　*Selected Group Shows*

1984　グレゴリオ・サンチェス画廊
　　（マドリード、スペイン）
1987　セニス画廊（マドリード、スペイン）
　　アテネオ市立美術館（グアダラハラ、メキシコ）
　　倉敷市立美術館（倉敷、岡山）
1990　ギャラリー37（マドリード、スペイン）
　　O美術館（東京）
1991　トリート文化センター（マドリード、スペイン）
1992　ギャラリー銀座汲美（東京）－03, 05, 06
1994　デトウルサ画廊（マドリード）,98, 00, 02, 04
1996　マルタ・モール画廊（セビージャ、スペイン）
1998　邑久町立公民館（岡山）
　　すどう美術館（東京）,00－02, 12
2001　アートスペース「西蔵」（岡山）－03
2002　スペースSOUL（福山、広島）－08, 10, 11
　　LADSギャラリー（大阪）,04, 05, 07, 09, 11
2005　トルモ画廊（トレド、スペイン）,09
2007　すどう美術館（小田原、神奈川）,08, 10, 11
　　アルゴナウタ画廊（トリノ、イタリア）
2008　カタルシス画廊（トリノ、イタリア）
　　サルガデロス画廊（ポンテベドラ、スペイン）
　　ガレリア アーツ&ティー（たつの市、兵庫）
　　ギャラリーはしまや（倉敷、岡山）－11
2009　ラス・ロサス文化センター（マドリード、スペイン）
2011　トロ画廊（グラナダ、スペイン）
　　マテリアル画廊（マドリード、スペイン）

主なグループ展　*Selected Group Shows*

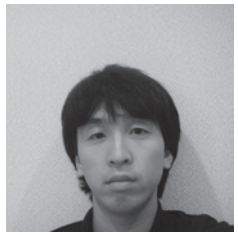
2006　「Montaña de Fuego」プエルト・カレロ画廊
　　（ランサローテ、カナリア諸島）
　　「国際アート・フェアー PUROARTE」
　　ビーゴ市見本市会場（ビーゴ、スペイン）
2009　「静寂の形」
　　サルガデロス画廊（ポンテヴェドラ、スペイン）
　　「MIRALLS」
　　エリサルデ文化センター（バルセロナ）
2010　「春の風」
　　プリモ・ピアノ・アートスタジオ画廊
　　（ビツェンツァ、イタリア）
　　「SEEDS・MA・FIELD」
　　アート・マーク画廊（ウィーン、オーストリア）
　　「SEEDS」ピッチ画廊（ソウル、韓国）／
　　蔭涼寺（岡山）／
　　秋吉台国際芸術村（山口）
　　「SEEDS・SEMI」
　　コロンボ画廊（トリノ、イタリア）
　　「SEEDS」トロ画廊（グラナダ、スペイン）
2011　「春の風」
　　リベリズモ画廊（ビツェンツァ、イタリア）
　　「国際アート・フェアー ARTMADRID」
　　カサ・デ・カンポ見本市会場
　　（マドリード、スペイン）
　　「興福寺国際現代美術展」興福寺（長崎）
　　「SEEDS」サルガデロス画廊
　　（ポンテベドラ、スペイン）
　　安楽寺（京都）
　　「スペイン現代美術展」ギャラリーそら（鳥取）
2012　「フロー展」エリサルデ文化センター
　　（バルセロナ、スペイン）
　　「龍野アートプロジェクト2012　刻の記憶
　　Arts and Memories」
　　（招待出品）（たつの市、兵庫）

その他の活動　*Activities*

2004　「SIANOJA国際美術シンポジウム」
　　（ノハ、サンタンデール、スペイン）
2008　「第1回ランサローテ美術シンポジウム」
　　カハ・ブランカ画廊
　　（ランサローテ、カナリア諸島、スペイン）
　　「太宰府天満宮国際アートシンポジウム」
　　太宰府天満宮（福岡）
2009　「興福寺国際アートシンポジウム」
　　興福寺（長崎）

《沼地の森に降る》 LED、モーター、導線、Arduino　サイズ可変　2012

《風と凪（炭酸水、時計、ブラインド）》 映像　9’53”　2012



今村 遼佑

IMAMURA Ryosuke

例えば、部屋の中にいて外の物音を聞いていた感覚や、降り出した雨を眺めた体験など、日常の中の何気ない感覚が記憶に残っていることがあり、そのような特別な理由なく残った感覚や体験にこそ、人と環境との関わりの中で根源的な何かがあるのではないかと感じています。それを、光や音、動きといったごくシンプルな要素に還元したのち再構成することで、個人の記憶から出発しつつも他者の記憶に作用可能なものとし、人と環境との関係性をめぐる表現を探っています。

1982　京都府生まれ
2007　京都市立芸術大学大学院美術研究科
　　修士課程彫刻専攻修了
京都市在住

主な個展　*Selected Solo Shows*

2009　「畔を廻る」PANTALOON（大阪）
　　「ノックする。」site（東京）
　　「白色と雑音」GALLERY301（兵庫）
2011　「…の向こう・その他」GALLERY IND.（大阪）
　　「ながめるとみつめるのあいだ」studio90（京都）
　　「ひるのまをながめる」
　　資生堂ギャラリー（東京）
2013　「雨の日」salon cojica（札幌、北海道）

主なグループ展　*Selected Group Shows*

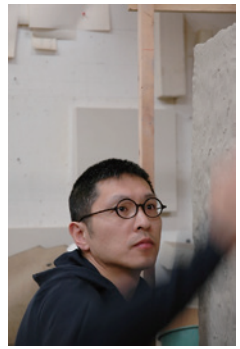
2008　「gadget」京都芸術センター（京都）
2009　「It’ s a small world」neutron Kyoto（京都）
　　「FIX」元立誠小学校（京都）
　　「京都オープンスタジオ「4つのアトリエ」」
　　陀里（京都）
2010　「京都オープンスタジオ2010」
　　うんとこスタジオ（京都）
　　「きょう・せい」
　　京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA（京都）
2011　「第38回現代美術 — 茨木2011」
　　茨木市立生涯学習センター（大阪）
　　「わざゼミ」京都芸術センター（京都）
　　「things on strings」
　　小山登美夫ギャラリー（東京）
　　「ヨコハマトリエンナーレ2011
　　OUR MAGIC HOUR
　　— 世界はどこまで知ることができるか？ —」
　　横浜美術館（神奈川）
　　「TAMA VIVANT Ⅱ　2011
　　「ただいま検索中」」
　　多摩美術大学八王子キャンパス／
　　パルテノン多摩（東京）
2012　「雨とクオンタイズ」Antenna Media（京都）
　　「文化の森ギャラリー 2012」
　　みのかも文化の森敷地内野外（岐阜）
　　「日常の冒険 — 日本の若手作家たち — 」
　　500m美術館（北海道）
　　「モンブラン・ヤングアーティスト・
　　パトロネージ・イン・ジャパン2012」
　　モンブラン銀座本店（東京）
　　「六甲ミーツ・アート 芸術散歩2012 」（兵庫）
　　「うつせみ」常懐荘（愛知）
　　「龍野アートプロジェクト2012　刻の記憶
　　Arts and Memories」
　　（招待出品）（たつの市、兵庫）
2013　「HOME PARTY」みずのき美術館（京都）
　　「seed」Gallery Nomart（大阪）
　　「六甲ミーツ・アート　芸術散歩2013」（兵庫）

受賞　*Awards*

2011　「第5回shiseido art egg 賞」
2012　「六甲ミーツ・アート 芸術散歩2012」
　　公募大賞　グランプリ

左：《そこに在るもの》 陶　左40×40×40cm　2011
右奥：《そこに在るもの》 陶　(50×50×50)cm×2　2011

《何か》 陶、膠　80×110cm　2001



尹熙倉

YOON Heechang

龍野橋のたもとで拾った砂を、陶芸の窯に入れて色々な温度で焼いてみる。砂の色が焼いた温度ごとにわずかに色が違う。
この砂はしかし、正確には上流域から集められたもので、もともと龍野の砂ではない。この砂のように、川が遠くから運んできた人、もの、情報が積み重なって町になったのだ。
揖保川の河口と源流域をふくめた五カ所で採集した。それを焼いて並べていると、揖保川という線に、町という点が重なるイメージがふくらんだ。

1963　兵庫県相生市生まれ
1982　兵庫県立龍野高等学校卒業
1986　東京造形大学造形学部
　　デザイン学科卒業
1988　多摩美術大学大学院美術研究科修了
現在　多摩美術大学工芸学科准教授
東京都小金井市在住

主な個展　*Selected Solo Shows*

1987　村松画廊（東京）
1991　双ギャラリー（東京）,92
1993　「呼吸する壁」ギャラリーキャプション
　　（岐阜）,95, 00, 02, 09
1997　静岡県立美術館
2000　ギャラリー小柳（東京）
2002　「そこに在るもの」ギャラリー小柳（東京）
2011　「四角の話」かみ添（京都）
2012　「『ある』の風景」ギャラリー小柳（東京）

主なグループ展　*Selected Group Shows*

1989　「第9回ハラアニュアル」原美術館（東京）
1990　「現代彫刻の歩みⅢ
　　―1970年代以降の表現―
　　物質と空間の変容」
　　神奈川県民ホール・ギャラリー（神奈川）
1993　「Art Today' 93」セゾン現代美術館（長野）
1994　「素材の領分」
　　東京国立近代美術館工芸館（東京）
1995　「やわらかく重く」
　　埼玉県立近代美術館（埼玉）
　　「還流」愛知県美術館／
　　名古屋市美術館（愛知）
2002　「光州ビエンナーレ・THERE:site of
　　the Korean Dispora」（光州、韓国）
　　「エモーショナル・サイト」
　　佐賀町食糧ビル（東京）
2005　「アルス・ノーヴァ ― 現代美術と
　　工芸のはざまに」東京都現代美術館（東京）
　　「国際陶磁ビエンナーレ・
　　Trans–Ceramic–Art」
　　世界陶芸センター（利川、韓国）
2006　「素景」3人展　資生堂ギャラリー（東京）
2009　「余白の美」静岡県立美術館（静岡）
2011　バーゼル・アートフェア（スイス）,12, 13
　　「新・陶・宣言」豊田市美術館（愛知）
　　「龍野アートプロジェクト2011　刻の記憶
　　Arts and Memories」
　　（招待出品）（たつの市、兵庫）
2012　「ブラインド サイト」MA2ギャラリー（東京）

研究奨励金　*Grants*

1995　文化庁芸術家在外派遣研修
　　イギリスに一年間滞在
2010　文化庁新進芸術家海外派遣研修
　　特別研修（80日）イギリス大英博物館

パブリック・コレクション　*Public Collections*

　　東京オペラシティーアートギャラリー／
　　兵庫大学4号館／
　　静岡県立静岡ガンセンター

左上：
《視界 cow N-001》
エポキシパテ（着彩アクリル絵具）19×30×16cm　2011
《視界 cow N-002》
エポキシパテ（着彩アクリル絵具）25×29×15cm　2011
右下：
《視界 sight hound B-002》
エポキシパテ（着彩アクリル絵具）21×42×15cm　2011
《視界 sight hound B-003》
エポキシパテ（着彩アクリル絵具）17×43×21cm　2011

《視界 rabbit s-007》　エポキシパテ（着彩アクリル絵具）　14×12×14cm　2013

東影 智裕

HIGASHIKAGE Tomohiro

作品自体は生きているわけではなく、死ぬこともなければ考えることもない物質でしかありませんが、単なる物質的な存在ではなく、作品と正対する人の意識に静かに働きかけ、生と死の狭間や境界、心や魂のような異質な存在を感じる事の出来る作品を作りたいと考えています。

1978　兵庫県高砂市生まれ
2002　武蔵野美術学園造形芸術科卒業
2004　武蔵野美術学園版画コース研究課程修了
東京都在住

主な個展　*Selected Solo Shows*

2011「東影智裕 立体展」
あるぴいの銀花ギャラリー（埼玉）
2012「東影智裕 個展」ギャラリー島田（兵庫）

主なグループ展　*Selected Group Shows*

2002「第3回東京国際ミニプリント・
トリエンナーレ」多摩美術大学（東京）
「MINI PRINT INTERNATIONAL
DE CADAQUES 2002」（スペイン、他）
「第27回全国大学版画展」
町田市立国際版画美術館（東京）
2004「トーキョーワンダーサイト 0号展 2003」
TWS hongo（東京）
2007「SUMMER EXHIBITION」
ギャラリー La Mer（東京）
2008「第46回アミューズメントマシンショー」
（株）タイトー（江頭2:50 胸像制作）（東京）
2009「日本芸術センター 第1回彫刻コンクール」
（入選）東京芸術センター（東京）
2010「LOOP EXHIBITION」
ギャラリー ivory（北海道）
2011「アートDEわん・にゃん展」
あさご芸術の森美術館（兵庫）
「立体と平面の二人展」
ギャラリー La Mer（東京）
「大庭和昭・須飼秀和・東影智裕 三人展」
ルネッサンス・スクエア（兵庫）
「ミニアチュール神戸展vol.11 ―Wish― 」
ギャラリー島田（兵庫）
「龍野アートプロジェクト2011　刻の記憶
Arts and Memories」（招待出品）
（たつの市、兵庫）
「アート2012干支展」
あさご芸術の森美術館（兵庫）
2012「interactive -youth-」ギャラリー 檜（東京）
「第7回タグボート・アワード入選者グループ展」
世田谷ものづくり学校（東京）
「ミニアチュール神戸展vol.12 ― Slowly ― 」
ギャラリー島田（兵庫）
「TAGBOAT AWARD」AKI GALLERY（台北）
「YOUNG ARTISTS JAPAN VOL.5」
（招待出品）東京デザイナーズウィーク（東京）
「アート2013干支展」
あさご芸術の森美術館（兵庫）
2013「第8回タグボート・アワード入選者グループ展」
世田谷ものづくり学校（東京）
「杉﨑良子 東影智裕 二人展」
あるぴいの銀花ギャラリー（埼玉）
「ミニアチュール神戸展 vol.13 ― Cadeau ― 」
ギャラリー島田（兵庫）
日本當代藝術「TAGBOAT AWARD 特展」
Art Space 金魚空間（台北）
「TAGBOAT@Bunkamura」
Bunkamura Gallery（東京）

受賞　*Awards*

2012「TAGBOAT AWARD」グランプリ受賞
2013「TAGBOAT AWARD」
審査員特別賞（山口裕美賞）

《空白クッション》 ミクストメディア　サイズ可変　2011
photo by Fujiba Miho

左：《トリック》 写真、色紙、油性インク　20.0×29.6cm　2012
右：《love addiction》 キャンバスに油彩　65.2×65.2cm　2012

小谷真輔

KOTANI Shinsuke

目の前に横たわる沈黙から、何か語りかけられているような気がするのは、そこに永い時間をかけて沢山の人が関わってきた痕跡と気配が在るからだろう。その空間に対峙することで生じる幾つかの私的な感動を抽出し、個別の要素として空間に点在させたい。次元のズレを孕みつつ、宙吊りにされたバラバラな点の集合が、どこかのタイミングで有機的に連動し始めるような様子を思い描いている。

1980　兵庫県姫路市生まれ
2005　金沢美術工芸大学油画専攻卒業
金沢市在住

主な個展　*Selected Solo Shows*

2003 「anonymous picnic」INFORM gallery（金沢）
2004 「ピンポン アンド パダライス」金沢市民芸術村アート工房
「地球のニキビ」INFORM gallery（金沢）
2005 「箱庭」INFORM gallery（金沢）
2006 「愛しの肉虫」INFORM gallery（金沢）
「まいごのまいごの」VOICE GALLERY pfs/w（京都）
2007 「あたしはヒロイック」VOICE GALLERY pfs/w（京都）
2008 「pure twinkle」unseal contemporary（東京）
「可愛いリズムでノックして」VOICE GALLERY pfs/w（京都）
2011 「無重力サーキット」MATSUO MEGUMI+VOICE GALLERY pfs/w（京都）
2012 「勝手にミュータント」香林坊窟（金沢）
2013 「monster idle」MATSUO MEGUMI+VOICE GALLERY pfs/w（京都）

主なグループ展　*Selected Group Shows*

2004 「Le Dimore dell`Arte」高田家厩跡（金沢）
「東京コンペ」丸ビル（東京）
2005 「想画考2」VOICE GALLERY pfs/w（京都）
2007 KYOTO ART MAP「裏・アートマップ2007」京都芸術センター
2010 「有毒女子」MATSUO MEGUMI+VOICE GALLERY pfs/w（京都）
2011 「龍野アートプロジェクト2011　刻の記憶 Arts and Memories」（招待出品）（たつの市、兵庫）
2013 「二十億光年の孤独」金沢アートグミ

受賞　*Award*

2004 「東京コンペ」東芋賞

《temporary rooms》
木版、紙　70×70cm　2012

桐月 沙樹

KIRIZUKI Saki

私は、物事と物事の間に興味があります、間と言うのは二つの地点のちょうど真ん中という意味ではなく、間を行き交う様子や、流れのようなものです。制作では木版の彫り進め技法を使い、木目と画像を同時に彫っています。インクをのせて刷り上げた時、有機的な木目は画像の定着を阻み、木目はイメージの一部となります。なにか合理的でない方法で両地点を行き交うことで、二点の共存空間を見つけたいと考えています。

1985　兵庫県生まれ
2009　東京造形大学造形学部美術学科絵画専攻領域卒業
2011　京都市立芸術大学大学院美術研究科版画修了
京都市在住

主な個展　*Selected Solo Shows*

2012　「桐月沙樹展」ギャラリーヤマキファインアート（神戸）
　　「桐月沙樹展」アートゾーン神楽岡（京都）

主なグループ展　*Selected Group Shows*

2011　「アートアワード東京丸の内2011」行幸地下ギャラリー（東京）
2012　「七月あたりの堂東さんと桐月さんと宮田さん」ギャラリー恵風（京都）
2013　「on the table」ギャラリー揺（京都）
　　「京展2013」京都市美術館（京都）

《ars》
ミクストメディア　サイズ可変　2011

西村 知子

NISHIMURA Tomoko

龍野に2013年4月から滞在し、生活しながら制作しています。 風土や土地に生きる人と対話しながら、龍野の歴史や醤油について調べ、龍野の土地だからこそできる作品を探っています。 醤油製造は奥が深く、菌という生き物との関わりが深い調味料である事に感動 し、作品作りをしています。

1986　京都府生まれ
2010　京都市立芸術大学美術科絵画専攻油画卒業
2011　ロイヤル・カレッジ・オブ・アート（王立芸術大学）交換留学
2012　京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻油画修了
兵庫県たつの市在住

主な個展　*Selected Solo Shows*

2011　「ars」project space in sculpture building（ロンドン）

主なグループ展　*Selected Group Show*

2010　「SIM」0000gallery（京都）
2011　「colors of KCUA 2011」京都市立芸術大学ギャラリー＠KCUA（京都）
　　「『UNO』交換留学生展」Hackny gallery（ロンドン）
2012　「作品展」京都市立芸術大学（京都）
　　「PHANTASMA」Antenna Media（京都）

《表面からみる記録層（side-B）》
ミクストメディア　サイズ可変　2012

角田 広輔

KADOTA Hirosuke

ものが持つ記憶をどうにか引き出そうとするとき、“正しい”情報を語らせることがとにかく重視される。しかし私は考古学者や歴史家ではないのでその術を知らない。醤油蔵に眠っていたものたちをとりあえずしばいてみる。音が出る。この音もそのものだけが持つ情報だ。だが他の人がしばいてみても同じ音がするのだろうか？真実はいつもひとつではない。少なくとも明確な形などない。それは思っているよりもずっとくにゃくにゃで、ひとつひとつの局面にぴったり貼り付いているだけなのだ。

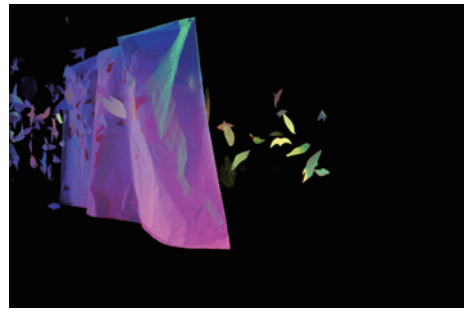
1987　兵庫県生まれ
2010　京都市立芸術大学美術学部油画専攻卒業
2013　京都市立芸術大学大学院美術研究科（修士課程）絵画専攻中退
大阪市在住

主な個展　*Selected Solo Shows*

2010「共振するみんなのフィールド」bar ROSEO（京都）
2011「延長と変換と増幅」京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA（京都）
「線と面のためのサラウンドシステム」京都市立芸術大学構内（京都）

主なグループ展　*Selected Group Shows*

2008「COMPLEX MUSE」京都市立芸術大学大学会館ホール（京都）
2010「SIM」0000 gallery（京都）
2011「Colors of KCUA 2011」京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA（京都）
2012「萬福寺芸術祭 ― えんをむすぶ ―」宇治市黄檗宗大本山萬福寺（京都）
「龍野アートプロジェクト2012　刻の記憶 Arts and Memories」（たつの市、兵庫）



《Colors Birds》 紙、和紙、ビデオプロジェクター　サイズ可変　2013
コラボレーション／トメックジャロリム

佐藤 文香

SATO Fumika

海を見つめる時　空を見上げる時　鳥と空の間に空間があるのだと気づくとき
杏をひらいた瞬間の、あの美しい色の存在に感動するとき
この完璧な自然美の中に人はどこに位置することができるのか、と思う。
自然の日常を切り取り、ただの「背景」になりつつある空間を、ある一つの要素として提示してみると、自然が私達の周りにただ存在するのではなく、すべてがこの空間で共存しているという事が再認識できるのではないだろうか。

1985　三重県志摩市生まれ
2007　エクサンプロバンス高等美術学校（フランス）DNAP（学士号）修得
2009　エクサンプロバンス高等美術学校、DNSEP（修士号）修得
アンティーブ（フランス）在住

主な個展　*Selected Solo Shows*

2009「Tout doit apparaître – アーティスティックウィンドウ　ショッピング」エスペリッド宝石店（エクサンプロバンス、フランス）
2010「旅鳥人 / Voyage Tori Hito」スジニ ギャラリー（フランス）

主なグループ展　*Selected Group Shows*

2006 – 2013
「国際ブックプロジェクト」（マルセイユ、フランス）
2009「第26回ランデヴ 若手作家入賞者展」セバスチャン・アートセンター（サンシール・シュル・メール、フランス）
2010　若手作家ビエンナーレ「ミュルーズ010」（ミュルーズ、フランス）
2011「龍野アートプロジェクト2011　刻の記憶 Arts and Memories」（たつの市、兵庫）
2012「ロンドンKALEID2012（ロンドンブックアートフェスティバル　40人の本展）」（イギリス）
「龍野アートプロジェクト2012　刻の記憶 Arts and Memories」（たつの市、兵庫）
2013「Paper Tiger / 紙老虎」ギャラリー
ドゥ テアトル、アゴラシアター（パリ、フランス）
「スジニギャラリー20周年記念展」
ギャラリースジニ（エクサンプロバンス、フランス）

ワークショップ／レジデンス
Workshops / Residences

2010　アーティストレジデンス フランス・マズレル アートセンター（カスターレー、ベルギー）
2011「カチナを作ろう」21_21 DESIGN SIGHT（東京）子供向けワークショップ
「ハサミで描こう〜コラージュ〜」龍野アートプロジェクト2011（たつの市、兵庫）
2012「こんな生き物いたらたのしいなー ハサミで描こうワークショップ」里海フェスティバル（三重）
「一つの絵本を皆で作ろう 切ってはって形を楽しむワークショップ」龍野アートプロジェクト2012（たつの市、兵庫）
2013「Le Petit Livre de la Mer 小さな海の本」版画／ブックアートワークショップ アトリエ・ビザビ（マルセイユ、フランス）

パブリック・コレクション　*Public Collections*

ローザンヌ市立図書館（スイス）／マルセイユ海洋美術館（フランス）／アトリエ　ビザビ（マルセイユ、フランス）／フランスマズレルアートセンター（フランダース、ベルギー）／ルクセンブルグ国立図書館（ルクセンブルグ）／オート・アルプ県立図書館（フランス）／アルル市立アルルメディアテーク（フランス）

《鳩ってなかなかプリッとしてるもんで》
シルクスクリーン、ドローイング、染料、布　50×72.7cm　2013

芝田 知佳

SHIBATA Chika

ずっとあるものが変化していく様子とふとしたときの意識の外側にあるものに興味があります。ふだん思いついては消えていく考えとか、通りすぎていく事とか状況。もやもやがはれた時の感情や切り替わったこと、何か食べたこと。いろんな気持ちを反芻しながら画面を考えています。

1984　兵庫県たつの市生まれ
2005　国立学校法人高岡短期大学
　　産業造形学科 金属工芸コース卒業
　　女子美術大学芸術学部
　　工芸学科染コース編入学
2009　東京藝術大学美術研究科
　　工芸専攻染織領域修了
兵庫県たつの市在住

主な個展　*Selected Solo Shows*

2005　Cârma（姫路、兵庫）
2013　「YY/MM/dd」　橘画廊（北区、大阪）

主なグループ展　*Selected Group Shows*

2005　「4th Lessedra world mini print」
　　Lessedra Gallery（ソフィア、ブルガリア）
　　「五美術大学交流展」武蔵野美術大学(東京)
　　「JAPAN TEX 変容する空間」東京ビッグサイト
2006　「Healthy Busy Students」
　　minas capes（北堀江、大阪）
　　「アートバカンス!! 今年の夏はバカに暑い！」
　　相模原市民ギャラリー（神奈川）
　　「ハヤブさ展」イロリ村（中崎町、大阪）
　　「51st CWAJ現代版画展」
　　東京アメリカンクラブ（港区、東京）
　　「5th Lessedra world mini print」
　　Lessedra Gallery（ソフィア、ブルガリア）
2007　「2006年度女子美術大学卒業制作展」
　　TEMPORARY CONTEMPORARY
　　（月島、東京）
　　「Choppirie Mate」
　　イーグレ市民ギャラリー（姫路、兵庫）
　　「アートランドコミュニケーション
　　Ueno Town art Museum2007」
　　隅田公園（東京）
2008　「アートランドコミュニケーションUeno
　　Town art Museum2008」隅田公園（東京）
　　「せんしょく展」東京藝術大学（東京）
2009　「第57回東京藝術大学
　　美術研究科修了作品展」
　　東京藝術大学美術館
　　「灯 あかり展」cocca（代官山、東京）
2011　「ラケルメジェール山田菜々子
　　LIGHT Exhibition」
　　bardenbarden（目黒区、東京）
　　「龍野アートプロジェクト2011　刻の記憶
　　Arts and Memories」（たつの市、兵庫）
2012　「SICF13」（青山、東京）
　　「龍野アートプロジェクト2012　刻の記憶
　　Arts and Memories」（たつの市、兵庫）
2013　「第5回Discover the Kobe
　　Genius Artists Project」（神戸、兵庫）

ワークショップ　*Workshops*

2010　「藍染め＆オパール加工ワークショップ」
　　norsk（目黒区、東京）
2012　「おおきなすごろく
　　— 自分だけのキャラクターで作ろう —」
　　龍野アートプロジェクト2012　刻の記憶
　　Arts and Memories（たつの市、兵庫）
2013　「藍染めワークショップ— かまぼこ板で
　　染めてみよう —」（夢前町、兵庫）

受賞　*Awards*

2003　兵庫県ゆずりは賞
　　龍野市民文化奨励賞

《記憶の重なり》
醤油瓶、透明シール　サイズ可変　2011

井上 いくみ

INOUE Ikumi

写真を表現の中心とし、非恒久性ということに興味をもって制作しています。すぐに形をかえてしまう工事現場などの持つ彫刻的、瞬間的な美しさをはじめ、住まい、建築物、未開発の土地などを通して人々の存在、形跡を感じる事ができたらと思います。

1985　兵庫県たつの市生まれ
2005　自由学園最高学部卒業
2009　ル・アーブル/ルーアン高等美術
　　デザイン学校DNAP（学士号）取得
2011　ル・アーブル/ルーアン高等美術
　　デザイン学校DNSEP（修士号）取得
　　パリ 8大学 芸術学科修士課程2年在籍
パリ（フランス）在住

主な個展　*Selected Solo Shows*

2005　「ヴォワヤージュ」アテネ・フランセ
　　（お茶の水、東京）
2008　ガレリア アーツ＆ティー（たつの、兵庫）

主なグループ展　*Selected Group Shows*

2007　「Un mo（nu）ment à vivre ensemble
　　ルーアン植物園（ルーアン、フランス）
2008　「Aître ici être ailleures」
　　ラ・プティギャラリーERBA（フランス）
　　「Hospitalisé」
　　ルーアン中央大学病院（ルーアン、フランス）
2010　「La Dolce Ombra, l' ombre et le double」
　　ルーアン音楽院（ルーアン、フランス）
2011　フェスティバル参加「Pied à Terre」
　　（シェンゲン、リュクサンブルグ）
　　「第3回サモワ・シュール・セーヌ写真展」
　　（サモワ・シュール・セーヌ、フランス）
　　「Tout doit disparaître」
　　ラ・プティギャラリーERBA（フランス）
　　「第14回国際ブックプロジェクト」
　　（マルセイユ、フランス）
　　「龍野アートプロジェクト2011　刻の記憶
　　Arts and Memories」（たつの市、兵庫）
2012　「インター：セクションズ
　　— 異文化交差のトポロジー」
　　関西日仏学館（京都）
　　「TROC pour l' ART(アートと物々交換)展」
　　個人所有スペース（パリ、フランス）

ワークショップ／レジデンス
Workshops / Residences

2009　ヴレニ・スピセールとワークショップ
　　ロドルフ・ユゲ とワークショップ
2010　ルクセンブルグ
　　フェスティバル・ワークショップ
　　参加のため 1週間滞在／
　　ギリシャ・ニシロス島　1ヶ月滞在、制作／
　　レジデンス（ドーデンブルグ、ドイツ）

パブリック・コレクション　*Public Collections*

アトリエ ビザビ（フランス、マルセイユ）

《もろみ大桶 1/1000 の幽霊》
醤油、和紙　サイズ可変　2012

犬丸 暁

INUMARU Akira

いま目に見え、手で触れ、感じる事のできるこの現実は、1秒後には既に手に触れられない“記憶”に置き換えられてしまいます。1秒後に見えるもの、触れるもの、感じるものも今はまだ触れられない“予感”です。“いま、この瞬間”に、からだの感覚全部を使って触れる事は、その二つの時間をしっかりと繋ぎ止める事のように思います。何かを強く握りしめるとき、そこには何かの痕跡が残ります。その痕跡を、過ぎた世界とこれから来る世界をつなぐ“架け橋”だ、と言う事はできないでしょうか。龍野では、制作を通してなにかその“架け橋”になるものを創りたいと思います。

1984　茨城県生まれ
2008　武蔵野美術大学油絵学科　卒業
2011　ル・アーブル/ルーアン高等美術デザイン学校DNAP（学士号）修得
2013　ル・アーブル/ルーアン高等美術デザイン学校DNSEP（修士号）修得
ルーアン（フランス）在住

主なグループ展　*Selected Groupe shows*

2005「犬展（with篠島紗恵子）」目黒区区民ギャラリー（目黒、東京）
2008「クラゲとパラソル展（with藤野真理子）」カフェひねもすのたり（杉並、東京）
2010「シエル！（美術雑誌AREA 24号出版記念展）」ギャラリーAREA（パリ、フランス）
2011「Sur le Fil展」ルーアン中央大学病院内教会（ルーアン、フランス）
「イッシー・ビエンナーレ2011」トランプ博物館（イッシー・レ・モリノ、フランス）
「Le Japon〜日本の童話の世界〜展」市民美術館（ラ・セル・サンクロー、フランス）
2012「TROC pour l'ART（アートと物々交換）展」個人所有スペース（パリ、フランス）
「L'esprit des plumes（スピリット・オブ・フェザー）」ギャラリーAREA（パリ、フランス）
「インター：セクションズ　— 異文化交差のトポロジー」関西日仏学館（京都）
「KYÔ 展」Espace 2、ブザンソン高等美術学校（ブザンソン、フランス）
「龍野アートプロジェクト2012　刻の記憶 Arts and Memories」（たつの市、兵庫）
2013「INSIGHT」ギャラリーPraye（ファレン、フランス）
「興福寺国際アートシンポジウム」興福寺（長崎市、長崎）

その他の活動　*Activity*

2013　舞台「Ponts Suspendus（吊り橋）」舞台装飾（グスタヴォ・ギャコザ監督・演出）
エクス・アン・プロヴァンス（フランス）およびリエージュ（ベルギー）

《See me, show you》　映像　5'37"　2012

ジェレミー アンドレ

Jérémy ANDRÉ (SPELKA)

工場員の家族の出身として、僕はいつも労働階級という身分に縛り付けられてきました。自分自身である事から遠ざかりたくありません。4年間美術学校に通いながら、時には夏期休暇の間も工場で働きました。そして工場の空間や機械たち、作業の動作を我がものとして扱ってきました。そんな中いつも工場というものを別の視点から見ようと試みてきました。マシーン、騒音、リズムなどの要素は強い魅力として僕を引きつけます。それらは僕たちをロボットに変えてしまうシステムの機能として変換されます。僕が制作する映像や音響、音楽を通して人間のロボット化について語りたいと思います。

1988　ルーヴィエール（フランス）生まれ
2006　バカロレア修得
2011　ル・アーブル/ルーアン高等美術デザイン学校DNAP（学士号）修得
2013　ル・アーブル/ルーアン高等美術デザイン学校DNSEP（修士号）修得
ルーアン（フランス）在住

主な活動　*Activities*

2011　短編映像「La vie rêvée des masques」（仮面たちの夢見る人生）」音響
短編映像「La minute Lumière（光のとき）」監督（ローラン シュヴァリエとの共作）
2012　短編映像「Les petits chats（子猫たち）助監督（ファニー レジェール監督）
「龍野アートプロジェクト2012　刻の記憶 Arts and Memories」（たつの市、兵庫）

《Epuisement 3》
パフォーマンス（7人の女性、7足の陶器の靴、7つのエクササイズ）
30’00”　2013

オフェリ・マック

Ophélie MAC

「わたしに接吻をしないで、訓練しているの」
クロード・カーアン

変化、転換の過程に魅せられ、ジェスチャーや動きの作用の継続 、
どのように変化を遂げて行くかということに重きをおいて制作しています。

1988　パリ（フランス）生まれ
2009　ルイユ・マルメゾン高等美術学校　DNAP（学士号）取得
2009　ル・アーブル/ルーアン高等美術デザイン学校、エラスムス交換留学（ロンドン）
2010－2012
　学芸員、ル・ラボラトワール（パリ）
　プロダクションマネージャー、ナイキ（パリ）
　スタージュ　メゾン・マルタン・マルジェラ（パリ）
2012　ラ・カンブル　ブリュセル美術大学　セラミック、パフォーマンス科
　修士課程2年在学
ブリュッセル（ベルギー）在住

主な展示　*Selected Shows*

2007　パフォーマンス《Armée》ルイユ・マルメゾン高等美術学校（ルイユ・マルメゾン、フランス）
2012　「シルク・エレクトリック」パフォーマンス《The death of the icon》（パリ、フランス）
　「Hors pistes」ヴィデオ《Versailles you blow my mind》ポンピドゥーセンター（パリ、フランス）
　「Monocle」インスタレーション、ギャラリー・アビレン、（ブリュッセル、ベルギー）
　パフォーマンス《Versailles you blow my mind》ペラ博物館（イスタンブール、トルコ）
2013　パフォーマンス《Bxl Bootycall》ギャラリー・ドゥラシャルジュ（ブリュッセル、ベルギー）
　ヴィデオ《Bxl Bootycall》Galerie DELACHARGE（ブリュッセル、ベルギー）
　パフォーマンス《Mascarade 1 / Mascarade 2》（トゥルーブル、フランス）
　レ・アル・ド・スハール ベーク（ブリュッセル、ベルギー）
　パフォーマンス《Epuisement3》ラ・カンブル（ブリュッセル、ベルギー）

ワークショップ　*Workshop*

2013　「Bxl Bootycall」ギャラリー・ドゥラシャルジュ（ブリュッセル、ベルギー）

《Archisculpture(s)》
ミクストメディア　サイズ可変　2013

マーク=アントワーヌ・ガルニエ

Marc-Antoine GARNIER

ある画像や、そこに表象されるもの、またその画像がひとつの限定された空間内で行われる意味の変換。私の制作はそれらを繋ぎ合わせる事です。
写真が生み出す映像は、常に多くの問いを私に投げかけます。カメラによって写し撮られた古典的でシンプルな構造を持った風景が私の探求の第一歩です。多くの実験や試行錯誤によって、その探求は多様性を持ちはじめました。そして“写真”というものを制作のための素材として扱うようになりました。それらの研究の数々は、画像とは何か、その内容やそのイメージが換言するものは何か、またそれが大衆からどう認識されるのか、という問いを投げかけます。
様々な展開を通して、画像をめぐる研究領域を深めます。それは“写真の抽象化”といえるでしょう。

1989　フージェール（フランス）生まれ
2009　サン・ブリュー美術予備校修了
2010　レンヌ美術大学1年次修了
　ル・アーブル/ルーアン高等美術デザイン学校2年次編入
2012　ル・アーブル/ルーアン高等美術デザイン学校DNAP（学士号）修得
　ル・アーブル/ルーアン高等美術デザイン学校修士課程在籍
ルーアン（フランス）在住

主なグループ展　*Selected Groupe shows*

2009　サン・ブリュー美術予備校開校記念展
2011　「REISE」ル・アーブル/ルーアン高等美術デザイン学校（ルーアン、フランス）
2012　「l’homme et la mer（ひとと海）」ル・アーブル/ルーアン高等美術デザイン学校／
　レンヌ高等美術学校（ルーアンおよびレンヌ、フランス）
　「Pièce（s）à vivre（ルーム［ズ］・フォー・ライヴ）」ギャラリーMAM（ルーアン）
2013　「entrée libre# 3（エントランス・フリー＃3）」ルーアン市内アートフェスティバル（ルーアン）
　「C’est levant les yeux que l’on voit la mer（視線をあげれば海がみえる）」
　ル・アーブル観光案内所（ル・アーブル、フランス）

《無題1》
色鉛筆、紙　120×80cm　2013

ボニー・ポット

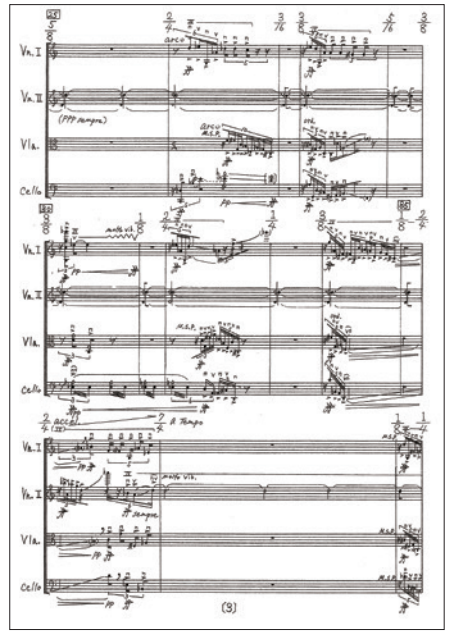
Bonnie POTH

わたしをとりまく環境や伝承、職人仕事、そしてタトゥーの実践などから派生して描かれる様々な図像。わたしのドローイングはそれらの間で交わされる対話を生み出すことです。緻密な作業によるドローイングは、彫刻や立体、写真などへと可能性を拡げていきます。

1991　モン・サン・テニョン（フランス）生まれ
2009　バカロレア（美術科）修得
2013　ル・アーブル/ルーアン高等美術デザイン学校DNAP（学士号）修得
　　ル・アーブル/ルーアン高等美術デザイン学校修士課程在学
ルーアン（フランス）在住

その他の活動　*Activities*

2010－2012　フランソワ・キャヴリエール（フォトグラファー）による
　　“Lacanau beach”シリーズのアシスタントとして活動
2011－2012　ジャン・グーレイ（タトゥー・アーティスト）の元でタトゥーの基礎を修得
2012　フランソワ・キャヴリエールとプライベート出版“Brune Editions”を創立
2013　Brune Editionsより『Concatenation（連鎖）』を出版



《EDGE》　2012
※楽曲（音源）出品

薮田 翔一

YABUTA Shoichi

私は『短い線の集積で作る音の流れ』という考えをもとに作曲しています。短い線とは書道の「はらい」「はね」のような鋭く短い線を、楽器の音で表現しています。その鋭く短い線が無数に集積し、音の層を作り、その中から旋律線が滲み流れてくる音楽を目指して作曲しています。

1983　兵庫県たつの市御津町生まれ
2011　東京音楽大学大学院作曲科卒業
ニューヨーク（アメリカ）在住

その他の活動　*Activities*

これまでに作曲を飯塚邦彦、有馬礼子、西村朗、糀場富美子、藤原豊の各氏に師事。第78回日本音楽コンクール２位入賞。第79回日本音楽コンクール２位入賞。トロンボーンピース・オブ・ザイヤー2011作曲賞。第80回日本音楽コンクール２位入賞。2012年、ウィーンコンチェルトハウス100周年作曲賞最優秀作品賞（オーケストラ部門）。京都フランスアカデミーメシアン賞。第81回日本音楽コンクール２位入賞。2013年、SORODHA（ベルギー）国際作曲コンクール1位入賞。たつの市民奨励賞（文化賞）。21世紀音楽の会会員。

アクセス

ヒガシマル醤油元本社工場

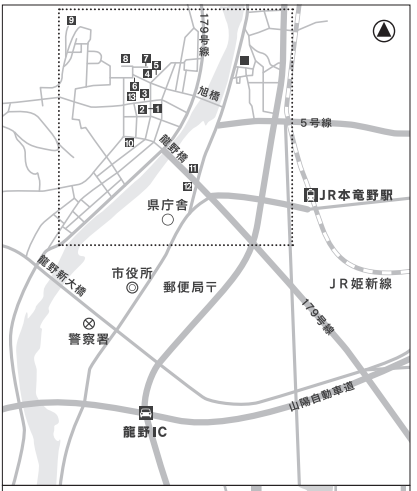
※うすくち龍野醤油資料館横入る

兵庫県たつの市龍野町大手54–1

□JR「姫路駅」よりJR姫新線乗車、
「本竜野駅」下車 徒歩約15分
□JR山陽本線「竜野駅」下車 タクシーにて約15分
□神姫バス「龍野橋」停留所より徒歩約5分
□山陽自動車道「龍野IC」から約5分
□太子竜野バイパス「福田ランプ」から約5分

**※会場付近に駐車場はありません、
JR姫新線をご利用ください**

※土・日のみ臨時駐車場あり
（総合庁舎土手沿い／徒歩約10分）



会場　※11以外は月曜休

1 国登録有形文化財 ヒガシマル醤油元本社工場
2 国登録有形文化財 うすくち龍野醤油資料館
3 元兵庫県信用組合
4 うすくち龍野醤油資料館別館蔵
5 うすくち龍野醤油資料館別館横住宅
6 三木露風生家
7 たつの市立龍野歴史文化資料館
8 龍野城
9 聚遠亭（浮見堂、御涼所）
10 たつの市立龍野図書館
11 ガレリア アーツ＆ティー ２F ※水曜休
12 アポロスタヂオ
13 東丸かるちゃーるーむ

「龍野アートプロジェクト2013
刻の記憶 Arts and Memories」小冊子

発行日　2013年9月
デザイン　加瀬部敏志［Antenna Media］
編集　南部沙智子［Antenna Media］
撮影　表紙 田邊真理
p.2, 4　山根由起子
発行　龍野アートプロジェクト（代表 淺井良昭）
龍野アートプロジェクト事務局（ガレリア アーツ＆ティー内）
〒679–4167 兵庫県たつの市龍野町富永1439
TEL/FAX 0791(63)3555　*WEB* www.tatsuno-art-project.com
印刷　合名会社　柳生印刷所

©龍野アートプロジェクト

文化庁
平成25年度文化庁文化芸術振興費補助金
（地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業）採択事業

関西から
文化力
POWER OF CULTURE